

情報モラルを高めることを目標とした実践②

道徳科と各教科等に関連付けた実践例

生徒の実態把握

インターネット利用の幅が広がり、私生活において個人情報を取り扱うような場面が増えてきている



教師の願い

ネット社会におけるルールやマナーについて考え、自他の権利を大切に、世の中の秩序と規律を高めようとする実践意欲と態度を身に付けてほしい

中学校 1年 道徳科

「ルールとマナー」

【内容項目】C 遵法精神、公德心

【ねらい】 情報社会における自分の責任や義務について考え、自他の権利を大切に、世の中の秩序と規律を高めていこうとする道徳的心情を育む

【情報モラル意識を高めるポイント】

- 登場人物たちの投稿にさまざまな問題が含まれていることに気付かせ、話し合い活動を通してネット社会における適切なコミュニケーションについて考えさせる。

【授業後の振り返り】

- 「SNSは人を傷つけるためにあるのではなく、楽しく話し合うためにある」
- 「自分や他の人に迷惑や損害が出ないようにするためにも、ルールを理解して生活することが大切だ」

生徒への啓発 全校集会

「情報モラル教室」

外部講師を招いたり、生徒指導主事が講話したりして、SNSの正しい使い方について学習する。

情報技術の習得 技術・家庭科

「ホームページを作成しよう」情報の保護や取扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知り、ホームページを作成する。

情報社会に関する知識 社会科

「日本の様々な地域 都道府県」情報の信頼性を吟味させるため、都道府県のウェブページ情報の真偽を百科事典や公式ホームページで確認する。

情報モラル教育は、
心の教育（道徳科）を要として、
教育課程全体の中で実践していきましょう

【令和3年3月発行】

今こそ、実践したい 道徳教育



新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校には「新しい生活様式」が取り入れられ、身体的距離の確保等の指導から、対人的な関わりから得られる心の育成に取り組む時間を確保することが難しい状況が続いています。

また、感染者や医療従事者等への不当な差別や偏見が社会問題として取り上げられたり、生活が変化したことによるネット利用の増加から情報モラルが注目されたりするなど、心の教育の必要性が叫ばれています。

このような状況だからこそ、児童生徒のよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、学校教育全体を通じてより効果的な道徳教育の在り方を探り、実践していくことが求められています。

本リーフレットでは、今こそ、実践したい道徳教育の実践例を紹介します。

愛知県教育委員会

差別と偏見を許さない心の育成

道徳科と特別活動を関連付けた実践例

生徒の実態把握

相談アンケートで「不安を感じている」と回答した生徒が昨年度より増えている
(理由：友人関係・勉強・行事削減)

教師の願い

主体的に考え、仲間とともによりよく生きる実践意欲や態度を身に付けてほしい

中学校3年 道徳科

「ぼくの物語 あなたの物語」

【内容項目】 C 公正、公平、社会正義

【ねらい】 誰に対しても公正公平に接し、差別や偏見のない社会にしようとする態度を育てる

【導入】

- ・進学先の学校や服装など、身近な話題で無意識に偏見をもった経験を想起させ、問題意識をもたせる。

【展開】

- ・比較することや優劣をつけることが、なぜいけないのかを考えさせ、多様な意見に触れさせる。

【終末】

- ・自作教材である「母親が医療従事者であることから、バイキン扱いされた少女と母親の悲しみ」がつづられた資料を読み、差別や偏見のない社会を作るために、どのような考え方をもち、どう行動していけばよいかを話し合い、自分の考えを深める。

【授業後の振り返り】

- ・「人は弱い。しかし、自分が同じ状況に置かれても、周りの人を苦しめることは絶対にしてはいけない」「不安であっても言うてはいけないことがある。不安に不安をぶつけても不安しか呼ばない」

特別活動①

＜学級活動＞ 生徒による話し合い

- ・コロナ禍での思いを共有し、自分たちに何ができるかを話し合う。
→ 困難な状況に置かれている立場の人に寄り添いたい。

特別活動②

＜生徒会活動＞ 生徒会による話し合い

- ・全校生徒の思いを一つにするため、生徒会が取組を企画し、実施する。
→ 医療関係者へ全校生徒が書いたメッセージボードを送りたい。

特別活動③

＜全校の取組＞

令和2年度の特別活動に、生徒会を中心とした「プロジェクト」を位置づけ、医療関係者の他に市役所職員等へのメッセージボードを作成し、贈呈した。

→ 自分たちが協力して取り組んだことに誇りがもて、コロナ禍でお世話になっている人たちに改めて心を寄せることができた。



心を耕す

実践意欲を高める

体験活動

情報モラルを高めることを目標とした実践①

道徳科と特別活動を関連付けた実践例

児童の実態把握

児童のスマホやインターネット利用率が高くなってきていることから、SNSによる友人とのやりとりに悩みを抱えている児童が増えてきている

教師の願い

相手の立場や人権を尊重して、よりよい人間関係を築いてほしい

小学校6年 道徳科

「知らない間の出来事」

【内容項目】 B 友情・信頼

【ねらい】 よりよい友達関係を築くために大切なことを考えたり、相手の気持ちや立場に寄り添ったりしながら、互いに信頼し合い、友情を深めようとする態度を育てる

【情報モラル意識を高めるポイント】

- ・メール等で自分の憶測を他人に伝える影響や危険性について気付かせる。
- ・SNSやメールでの内容が、拡散されたり誇張されたりすることを理解させ、相手の気持ちを考えた行動や態度について、深く考えさせる。

【授業後の振り返り】

- ・「自分の思い込みで人を傷つけてしまうことがあると分かった」
- ・「スマホは便利だけど、誤った使い方をしてしまうと、怖い凶器になることもあるので、気をつけて扱えるようにしたいと思った」

特別活動①

「SNSでのやりとりで気をつけることを考えよう」

【ねらい】 相手の思いや立場を考えたSNSの使い方を理解し実践できる

【情報モラル意識を高めるポイント】

- ・実際に2台のスマホのやりとりを大型ディスプレイに映し出し、グループで話し合う活動を通して、SNSでの適切なやりとりについて考えさせる。

【授業後の振り返り】

- ・「自分が思っていたよりも相手を傷つけないやりとりの仕方を知ることができた」
- ・「グループで話し合うことによって、同じ言葉でもそれぞれの受け取り方が違うことが分かった」
- ・「これからは、いろいろな感じ方や受け止め方を考えながら慎重にメールでのやりとりをしたい」



心を耕す

実践意欲を高める